

第2回富山県総合計画審議会

1 日時 平成29年5月18日(木) 13:00～15:00

2 場所 : ANA クラウンプラザホテル富山 3階 鳳の間

3 出席委員(五十音順)

永原審議会長、遠藤会長職務代理者、高木活力部会長、金岡未来部会長、
岩城安心部会長
石塚委員、伊藤委員、稲垣委員、碓井委員、内山委員、梅田委員、老月委員、
大井委員、大西委員、大野委員、小川委員、尾谷委員、尾山委員、片貝委員、
勝田委員、金森委員、神川委員、川村委員、久和委員、槻委員、小見委員、惣万委員、
高田洋信委員、中井委員、藤井委員、馬瀬委員、宮田委員、麦野委員、村井委員、
桃野委員、山下委員、横井委員、吉田泉委員、吉田忠裕委員、和田委員

4 議事

- (1) 富山県総合計画審議会運営規程の一部改正について
- (2) 新総合計画の構成案について
- (3) 新総合計画の骨子案(総論編)について
- (4) 県づくりの視点(案)について
- (5) 新総合計画の骨子案(基本計画編)について
- (6) 重点戦略のテーマ案について

5 発言要旨

(1) 知事挨拶 石井知事

- ・ 本日、第2回富山県総合計画審議会を開催しましたところ、永原会長をはじめ、委員の皆さまには大変お忙しい中ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。
この総合計画審議会は昨年12月に第1回を開催し、新たな計画の策定について諮問させていただきました。その後、活力、未来、安心の三つの部会と全体の取りまとめを行う総合部会をそれぞれ2回ずつ開催し、政策の体系や各政策の目標、取組みの基本方向、重点政策について、それぞれご審議いただいたところです。大変貴重なご意見をたくさん頂きました。なお、今回は総合部会の下に青年委員会を設け、30代のメンバーを中心にこれまで2回ご審議いただいて、いろいろなご意見を頂いております。
- ・ 本日はこれまでの審議会や各部会での検討結果等を踏まえ、総合計画の全体の構成案、この計画に盛り込むべき政策の骨子案について提示させていただき、今後、戦略的に取り組むべき重点戦略のテーマなどについてもご審議いただきたいと存じます。
- ・ ご承知のとおり、第4次産業革命の進行や働き方改革など、新しい時代の潮流、重要課題も出てきていますが、こうした流れを踏まえながら、皆さまのご意見・ご提言を伺いまして、おおむね10年先を見通した、できるだけ明確な富山県の将来ビジョンを描きたいと考えております。活力、未来、安心の三つの基本政策、また、これら全

体に通じる重要政策として人づくりを推し進め、新幹線開業により新しい時代を迎えた富山県の未来をみんなの力でつくり出すのだという意気込みで取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

- ・ なお、この審議会で取りまとめられる骨子案については、今後、県民の皆さまへのパブリックコメントを実施します。また、市町村長や有識者などとの意見交換、さらにはタウンミーティングなどを通じて、幅広く県民の皆さまのご意見を伺い、先見性と実効性のある計画となるよう、また、県民の幅広い参加の下で策定された計画となるよう努力してまいりますので、どうかよろしくお願いいたします。

(2) 資料説明

<事務局より資料1～6> 省略

(3) 意見交換

【永原会長】

- ・ 今日の議論の進め方は2部構成として、まず、資料2～4までについてご意見を頂戴し、後ほど資料5～6についてご意見を頂くということで進めたいと存じます。
- ・ まず、資料2～4については、先週、総合部会において審議いたしました。これについて、遠藤総合部会長から簡単にコメントをお願いします。

【遠藤総合部会長】

- ・ 先週5月11日に、活力、未来、安心の3部会長にもご出席いただき、総合部会を開催致しました。そこでの意見の概要を、資料2に沿ってお話しさせていただきます。
- ・ 第1章「計画策定にあたって」において、これは現在の総合計画を基に、「とやま未来創生戦略2017」や「富山県経済・文化長期ビジョン」など、並行して行われてきた施策・計画を取り込んで、かつ、10年先の2026年を目標年次として策定することを確認した上で、意見交換を行いました。
- ・ 第2章、3章はよろしいかと思えます。議論は第4章「富山県の目指すべき将来像」に多くが集約されました。特に1番「県づくりの視点」について、これは資料4で新たに四つの項目にまとめられており、順番としては「新たな価値創出」から始まって4番目の「人づくり」で終わっていますが、「人づくり」が全ての根幹であるから、1番に来るべきではないかという意見がありました。
- ・ また、対象の地域は一体どこにしているのだろうか、富山ということはもちろんですが、富山のローカルの中の地域性、あるいは富山県から北陸、日本と広く捉えながら、計画案を作るのかという意見が出ました。
- ・ 本計画は10年後を一つの目標に置いているが、今はITやAI、あるいはロボットなどで社会が大きく変わっていくこと、さらにいろいろなインフラの整備等を考えると、20年、30年後も念頭に置いた計画案を考えておかなければ、不十分ではないかという意見が出ました。
- ・ 第4章の2番「目指すべき将来像と計画の基本理念」ですが、これについては基本的によろしいかと思えます。また、各部会での検討が行われていると思えます。

- ・ 3 番「目指すべき将来像の実現に向けた政策」には政策体系と重点戦略が書かれています。これに関しては幾つか意見がありました。まず総論的なものとして、どうしても総花的になっている。もっと集約して、項目によっては捨てる勇氣も必要ではないかという意見が出ました。また、幾つかの計画が入っているわけですが、働き方、働く場の提供など人材育成を考えると、ダイバーシティ、すなわち性や年齢、個人の意識の持ち方の違い等も考えながら整理していく必要があるのではないかという意見がありました。
- ・ 第 6 章「計画の実効性の確保と推進」のところでは、案はよろしいのですが、財政的な基盤のことが全然書かれていない。実行するに当たって、これはどのような形で考えていけばいいのかという意見が出ました。また、この計画を皆さんと進めていくに当たって大事なものは、県民の意識をいかに醸成していくかであろうという意見が出ました。

【永原会長】

- ・ ありがとうございます。それでは、委員の皆さまからご意見を頂戴したいと思います。資料 2～4 のどの部分でも、また、どなたからでも結構ですが、いかがでしょうか。

【梅田委員】

- ・ 遠藤委員がおっしゃった総論の中で一番大事なのは、やはり人づくりに尽きるのではないのでしょうか。最初に人ありきですから、そういう意味では、未来永劫ではないですが、ずっと考え続けなければいけないことです。機械やモノだけではなく、どういう時代が来ても心が一番大切なので、それに対する小さいころからの教育が、10 年後、20 年後、30 年後の日本と言うと少し大げさですが、富山県のあるべき姿につながっていきます。今も富山はすごく恵まれていると思っていて、私自身も感謝しておりますし、そういう意味では今の知事さんは本当に真剣に考えてくださっているということで、私はすごく感動しています。
- ・ ただ、自分が生計を立てている中で考えると、富山になくてはならない中小企業、ましてや小企業は、歯車の一つにも満たないかもしれませんが、そういう積み重ねで富山県も成り立っているような気がしています。ですから、そこを皆さんで真剣に人づくりの中で考えていただけたらと思います。
- ・ 働くことによって生計が立てられるということは、やはり税金もたくさん納めるということですから、福祉にしても何にしても、ちゃんとなるのではないかと思います。

【宮田委員】

- ・ 資料 5 を拝見したのですが、私が部会で発言したことを随分取り入れていただきまして、大変きめ細かな案を作っていただいたことに、まず感謝申し上げたいと思います。
- ・ 最初の前半戦の議題では、やはり私も人づくりが一番の根幹ではないかと思っております。資料 2 の図にありますように、優先順位うんぬんということよりも何より

も、とにかく人づくりは絶対的な基盤だという気がしております。月並みですが、やはり人づくりは未来への投資であるといわれています。これからは人が担うソフトの時代だとも思っておりますので、ぜひここにこれまで以上の力を入れていくことがあればいいなと思っております。

- ・ 人づくりは産業にとっても、生活にとっても基盤であると思います。私の主な分野である生活分野でいくと、よく生老病死といいますが、生まれて死ぬまでの保育・教育・医療・介護の人材育成に特に力を入れていく必要があるのではないかという気がしております。かつて人材立県ということもいわれていましたが、ぜひそういった視点で重点の中の重点としていただければと思っております。
- ・ もう一つ、私は大学におりますので、最近話題になっている地方大学の振興について申し上げたいと思います。人口の首都圏への集中、これは首都圏の大学への集中もあるのではないかとされていますが、つい先だつての内閣府の有識者会議では、東京 23 区に立地する大学の定員増を認めないという案が出ました。ただし、地方へのサテライト進出はオーケーとされており、いわば私ども地場の大学としては、魅力ある大学づくりに精いっぱい取り組んで県外流出を防ぐ、あるいは地元での学びの場を広げるといったことはもちろん努力しますが、中央の巨大有名大学にサテライトで進出されたら、多分、たまったものではありません。どうか地場の大学の充実・振興についても、私たちの努力に対して精いっぱいご支援を頂ければと思っております。

【大西委員】

- ・ 未来部会の中で、この総合計画ができた途端に陳腐化していくような計画であっては困る、10 年先にも生きた計画であればいいという話があつて、なるほどと思つて聞いていました。確かに 10 年前の子どもたちの生活、親たちの生活、それを取り巻く環境と現在を比べると、予想もしていなかった環境になっているというのをひしひしと感じております。10 年前には問題にならなかつたようなことが、現実の問題になっているということがあるかと思つます。世の中のいろいろな環境が、技術なども含めて、目まぐるしく変わっていく現状なので、資料 3 にもありましたが、計画は PDCA サイクルの手法を活用し、ぜひ柔軟な見直しや弾力的な推進をしていただければと思つます。
- ・ 今の小学生や中学生、力ある子どもたちが富山に残ろうと力強く感じてくれるような、魅力ある県になるような計画になっていけばいいなと思つます。

【吉田忠委員】

- ・ 大事なことが書いてあるのですが、大事なことは全部書き終えたから、これでいいのだということではなくて、何を本当にこの 10 年の中で、あるいは 10 年たつてから反省しても仕方ありませんから、3 年とか 5 年でどこまで行けたかを本当に確認できるかどうか。つまり、アウトプットが非常に大事ではないかと思うので、アウトプットを途中で検証できるようなものに焦点を当てながら進んでいくと。それではバランスが崩れるかもしれないのですが、そういうものもかなり必要なのではないかと感じております。

- ・ 私は2日ほど前にヨーロッパ4カ国を回って帰ってきたのですが、そこでいろいろな人と接しました。大学の先生たちとも接したのですが、ものすごくレベルが高いというか、必死になっているいろいろなことを研究している人たちがたくさんいて、大変刺激を受けました。逆に言うと、うちの会社もそうなのですが、外から富山県へ来てものすごく刺激を受けて帰るという印象を持っていただけるような状況があるのかどうか、本当にちゃんと伝わるのかどうか、その辺が一つのチェックポイントになるのかなと思っています。これから進めていくことのアウトプットについて、本当に10年後の議論だけではどうかなと思うので、途中、途中で確認できるような内容にしていただけたらと思っています。

【石塚委員】

- ・ 先ほどから出ていますように、作っただけではなくて、実行が大事ですから、私は未来の12番「県立大学における新学科の設置と看護学部の創設」と書いてありますので、こちらを着実に実行してまいります。

【稲垣委員】

- ・ 先日、総合部会にも出て意見も申し上げましたが、最近ちょっと考えるのは、やはり県民の幸福の総和をどう高めていくのかということが、県の政策の一番大きな役割ではないかと思っています。ただ、この総和を高める、大きくするということが、今の流れで言うと、例えば上層部というか、ある一部の層に幸せが固まっていても困るなど。最近では格差社会といわれていますが、底辺と言っては大変失礼ですけども、その部分の底上げをどうしていくのか、そして全体の幸福感の総和を高めていくことが大切なのではないかと思っています。

では、幸福感とは何ぞや、幸福とは何ぞやというのは非常に難しい問題ですが、やはりこれが経済的な豊かさが基盤にあることは、ある意味で否定はできないと思っています。では、経済的な豊かさをどう大きくしていくのか、その中でそれが一部の上方にだけ固まるのではなく、幅広く底辺層の底上げもしていくことによって、安心して豊かな生活やいきいきとした生活ができる基盤をつくるのが大切だという気がしております。

【伊藤委員】

- ・ 大変きっちりまとめてあると思います。ただ、やはりこれだけの政策になりますので、10年というスパンを考えたときに、濃淡もあっていいのかなと思います。また、この実践に当たってのPDCAサイクルをどう回し、どう検証するか、むしろ実践に向けてそのあたりの整理が必要ではないかと思います。

私は活力部会の所属ですが、農業分野も大変しっかりと整理されていて、これをこれからどうやっていくのか、PDCAを回す中でどう実践につなげていくかというのは、大変大きな宿題も頂いたなという感じでおります。

【小川委員】

- ・ 先ほどから人づくりが大事だという話がたくさん出ていますが、私もそれが一番大事だろうと思っています。日本の人口が減っていく中で、10年後はいざ知らず、その先だんだん人口が減っていく中で、いろいろな政策・施策を考えても、人がいないのでは話になりません。

ここに多くの経営者の方がおられますが、われわれも含め、若い社員の定着率の悪さや就職志望人数の低下などで、人の確保には非常に苦勞されている方が多いのではないかとお察しします。可能な限り経済界・産業界の要望を受けて、今まで気が付かなかったいろいろな施策等もあるかと思しますので、その辺を常に重視していただきたいということだけ要望しておきたいと思います。

【惣万委員】

- ・ 第1編「総論」の第5章に県政運営の基本姿勢が六つ書いてあって、どれももつともなことですが、私の意見としては、1番は「縦割りと前例にこだわらない県政」、2番は「県民が信頼と誇りを持てる県政」、3番は「女性が活躍できる県政」にしてほしいと思います。

【横井委員】

- ・ 私は毎回活力部会に参加させていただいた際に、県としてきらりと光る特徴を一つ持つべきだとお話しさせていただいております。誰にも負けない、単純明快な、抜きん出た何か一つで、「富山県といえば、これ」と誰にでも分かる特徴で、この多くの政策の中からおおむね10年間で一つ見つけ、決めるのはどうでしょうかと、毎回意見の中に入れてお話しさせていただいております。

今回、新しい総合計画の重点戦略テーマ案の中に「本県のオンリーワンの魅力に磨きをかけてグローバルに発信する」という部分がありました。オンリーワンの魅力というのはナンバーワンより上の響きで、攻めの姿勢が感じられ、素晴らしいと思います。

また、今回の新総合計画骨子案はしっかりとした政策、目標があり、どれも少しずつ具体的になってきており、より踏み込んで考えられている部分も多々あるように感じました。ぜひこの政策の中からおおむね10年後に、オンリーワンの魅力やきらりと光る特徴が出てくることを願っております。

【内山委員】

- ・ 私は「はっぴーママ」というママ向けの子育て情報誌を発行しておりますので、ママ目線でお話しさせていただくとしたら、今回のこの骨子案は素晴らしいと思いますし、皆さんのような経営者なりトップの方々がこれだけ意見を言い合って、良いものができています。ただ、その下の方にいるママや普通の会社員がこれをどのように、サービスを受けるだけではなく、自分たちもこれに参加して富山県を良くしていこうという意識の醸成といいますか、それをどうやって進めていくのかがとても大事ではないかと考えております。みんなが富山県を良くしていこうという心持ちになるのは

なかなか難しいのかなと考えながら、参加させていただいております。10年後、輝く未来になればいいなと思いつつながら、期待を込めて、これからも参加させていただければと思っております。

【永原会長】

- ・ ありがとうございます。それでは石井知事から、委員の皆さまのご意見に対するコメントをお願いしたいと存じます。

【石井知事】

- ・ 皆さま、それぞれ大変貴重なご意見をありがとうございました。今までのご発言で、全般を通じて何とんでも人づくりが一番大事ではないかというご発言がたくさんあったと思います。私もまさにそのとおりだと思っております。
- ・ 資料4で先ほど事務局から説明をしましたが、現行計画は視点1、2、3とあって、一番上に人材というのがあります。今度の県づくりの視点は四つあるのですが、一番下に人づくりがあるので、人づくりを必ずしも一番大事に思っていないのかなと受け止めた方がいらっしゃるかもしれません。しかし、これは視点ですから、どれが1番でどれが2番ということではなくて、そのような誤解がないようにしたいと思います。
- ・ 冒頭の挨拶でも申し上げましたように、私が最初に県知事選挙に出させていただいたときに、県民の皆さんに一種の政権公約（マニフェスト）を出して当選させていただいたのですが、そのときも活力、未来、安心を政策の基本方針として発表しました。しかし、活力の分野でも、未来の分野でも、安心の分野でも、大切なのはやはり人づくりだと。全体を通じて重要なのは人づくりだと申し上げてきて、その点はこの12年間、ずっと一貫してきたつもりです。今、お話があったことはそのとおりだと思いますので、今後もそうした姿勢で、この計画もまとめてまいりたいと思います。
- ・ なお、人づくりといっても、人材の質に関わる問題、それから今は少子化時代で、労働力としての人の量もしっかり確保すべきではないかということの二つがあって、後者の意味でおっしゃっている方もいらっしゃると思いますが、いずれも大事なことだと思います。ただ、もちろん合計特殊出生率を上げたり、社会増減で言うと、東京への流出に歯止めをかけて富山に戻ってきたり、富山を選択して富山で働き暮らす人を増やしていくことの両方があるのですが、これはいずれもこの12年間で随分良い兆候が出てきているかと思えます。合計特殊出生率で言うと、一時は1.37まで下がったのが今は1.51で、21年ぶりに高い数字になりました。もちろんこれで満足せずに、県民の皆さんの希望出生率1.9をなるべく達成していこうということで、これからも努力してまいります。また、社会増減についてはここずっとマイナスが続いていたのですが、ついに昨年は社会増減がプラスになりました。どこの地方でも頑張つて、そのようなことになりつつあるのかなと思いましたが、この間もある県の知事さんとお話をしていて「ああ、そうかな」と思ったのが、県によっては、この社会増減を計算すると、毎年5,000人ぐらい減っているところもあるのです。そのような県と比較すると、富山県はかなり良いポジションに来ているのかなと思えますが、さらに若い人や女性にもっと選ばれる県になるように頑張っていかなければいけないと思います。

- ・ それから、人づくりの質の問題ですが、これは稲垣委員が言われた県民の幸福の総和を最大にするというのはそのとおりなのですが、一つには幸福とは一体何かということがあります。これは皆さん同じようなことを考えていらっしゃると思いますが、やはり経済面の豊かさが必要だと思いますし、もう一つはやはり心の豊かさが必要で、そのためには文化やスポーツの振興が大事だと思っております。

併せて、幸福の総和を最大にするということはそのとおりなのですが、それをいつの時点で考えるか、来年なのか、再来年なのか、あるいは10年後なのかも結構大事で、できれば来年も再来年も最大にしたいですし、10年後にも最大であれば一番良いのですが、現状に課題があるから、もっとこうしたいと言っているわけです。この計画について諮問させていただいている立場とすると、10年後に今よりもさらに良くなる、県民の皆さんに幸せになってもらうということで、その幸せの中身は経済・産業の活性化・豊かさ、心の豊かさですが、そのためにも文化力が大事です。そのようなこともあって、昨年、「富山県経済・文化長期ビジョン」を策定させていただきました。

- ・ また、何人かの方から、要はどのような立派なことを書いても、実行しなければ仕方ないと。全くそのとおりで、これまでの「新・元気とやま創造計画」も県民参考指標として189の指標を出して、10年間の計画なのですが、中間目標を立てて、毎年一種のPDCAサイクルで予算編成のときにどこまで実現できているかをチェックしながら、「ここが足りないから、今年は力を入れよう」「こちらはかなり順調だ」「ここは期待、あるいは予測どおりになっていないから、もっと力を入れよう」という形で予算編成をしております。あまりそういうディテールまでご報告していないかもしれませんが、実はそのような形で非常に役に立てて予算編成もし、また、実行しているということで、成果もかなり出ています。
- ・ その他、首都圏への人口集中、特に若い人の集中を抑制するというので、今、内閣官房を中心に、地方創生担当大臣の山本大臣をはじめ、皆さんでいろいろな議論をしていますが、何とかまず大学進学を機とする23区への若者の集中をなるべく抑制しようということで、14年前に廃止になった工場等制限法の中の大学の立地に関する規制の部分を復活させようではないかと。

併せて、やはり若い人が東京に集まるのは、東京の大学に夢や希望があるから集まってくるということでしょうから、地方の大学が、もちろん今でも頑張っているのですが、若い人や女性が「ここで学びたい」と思えるようなもっと魅力ある大学になるように、大学と経済・産業界、行政が一体となってしっかりしたプロジェクト出すところを国も積極的に支援しよう。ただ、地方大学といっても全国で800ぐらいありますから、この厳しい財政事情の中でどれもこれも同じように支援することは難しいと。そこで、意欲のあるところ、地元の大学と産業界、行政がきちんとしたビジョンを持って進むところ、しかも具体的なプロジェクトがあるところを支援するという方向になっています。何とかこの流れの中で富山県を選んでもらうということで、今、必死に取り組んでいるので、よろしく願いしたいと思います。

【永原会長】

- ・ ありがとうございます。それでは、次に移りたいと存じます。資料5は先月下旬

に開催された活力、未来、安心の各部会において、資料6は先週11日の総合部会において審議いただいたものです。まず、議論に入る前に各部会長から簡単にコメントを頂戴したいと存じます。それでは高木活力部会長、金岡未来部会長、岩城安心部会長の順番でお願いします。

【高木活力部会長】

- ・ 本日、神戸で全日本広告連盟の総会があり、その来年の開催地が秋田、再来年が富山なので、今年の秋田のプレゼンを見に行ってきました。そうすると、美人の率が一番であるとか、学力では中学・高校とも日本一だとか、戸建ての持ち家率が一番だとか、たくさん良いことを言った最後に、しかし、実は県民が100万人を切ったと言っていました。私の記憶では確か秋田県は富山県よりも多くて、120万人前後いたと思うのですが、これはやはり石井知事がこの十何年間、一生懸命皆さんと共にやってきたことの成果が富山県では出ているのだなと実感してきました。良いところに学ぶのも必要ですけれども、そうでなくて苦労しているところも知ることが、このような計画を実施していく上で大事ではないかと思った次第です。
- ・ 活力部会の概要について申し上げます。まず、展開目標1「グローバル競争を勝ち抜く力強い産業の育成と雇用の確保」では、ものづくりの基盤の視野が広がる企業、具体的には富山県も既に着手している航空機産業、それから富山県に有数の企業があるロボットを含め、それらの誘致、つながりの支援強化、県の支援をお願いできないか。また、何が売れるかという市場調査を含めたプロモーションの強化も必要ではないかというご意見がありました。それから、医薬品の生産額は皆さんのご尽力で全国1位になったそうですが、こうしたものにつながる例えば容器であるとか、そういったものの水準を上げるなど、産学官金で連携し、周辺産業のてこ入れ・開発にも支援が必要ではないかという話がありました。
- ・ 事業承継・人材育成については、今、小規模企業の事業承継も大きな問題になっているので、こういったものへの支援の強化、あるいは事業・技術承継のためのシニア専門人材バンクの強化をすべきといったご意見がありました。
- ・ 展開目標2「生産性・付加価値の高い農林水産業の振興」では、集落営農に従事する人の高齢化が進んでいることから、農商工連携を強くしていかなければ10年後がとて心配だということで、農業と工業がもっと融合・高度化して生産性の向上、いわゆる後継者づくりを考えていくべきではないかという話がありました。
- ・ 展開目標3「環日本海・アジア新時代に向けた陸・海・空の交通基盤の強化」では、北陸新幹線の金沢以西の整備促進に向けて、関係府県と連携を強化していく必要があるのではないかと。また、城端線、氷見線、高山線についても市町村と取り組んで、強化していく必要があるのではないかとという話がありました。
- ・ 最後に展開目標4「観光振興と魅力あるまちづくり」ですが、富山の自然の食材を利用した「食のバレー」をつくるなど、富山県としてきらりと光る特徴を出すべく、いろいろ検討していったらどうかというご意見がありました。アンケートについても、空港や駅などで実施するなど、もう少しサンプル数を増やすための努力が必要ではないかという話が出ていました。

- ・ 私の意見としては、計画の実効性を担保するために、市町村との連携の強化や県境をまたいだ広域での連携強化について申し上げたのですが、資料の 2 ページにも書いてあるように既に知事は新潟県知事と面談されて、ドクターヘリや防災など、いろいろなことを進めておられるということです。

【金岡未来部会長】

- ・ 未来部会のご報告を申し上げます。4 月 26 日に県民会館にて審議会委員 10 名、専門委員 7 名、計 17 名にご出席いただき、さらには知事、教育長にもご出席いただいて、未来部会を開催しました。

この委員会の特徴として、委員 22 名のうち 12 名が女性の委員です。当日もご出席の 17 名のうち 11 名が女性ということで、この総合計画にもある、女性が活躍する未来を先取りするような委員会構成になっております。幸い、2 回目ということもあり、大変活発なご意見を非常に多く頂きました。参考資料 1-2 に事務局の方で大変うまくまとめていただきましたので、個別のことはここではあえて申し上げませんが、ここに書き切れないぐらいの大変多くの貴重なご意見を頂いたことを、まずご報告申し上げたいと思います。

- ・ そこで私が最後に申し上げたことを先ほど大西委員からご紹介いただいたのですが、10 年という計画になると、後で見返す際に、一般的にどの計画もそうですが、作った瞬間に陳腐化していってしまうと。特に表現、内容の構成の仕方が 1 年後、2 年後に見返した際に古いと感じられると、もう参照されなくなります。大変難しいことですが、表現や用字用語に注意していただきたいと申し上げた次第です。
- ・ なお、委員の皆さま全員から頂いた意見ですが、総じて基本的に方向に対する反対意見はございませんでした。むしろ記載内容やその表現について、より一層の吟味・充実をお願いしたいという意見が大半だったのではないかと考えております。
- ・ 以上が部会の報告ですが、先ほどから皆さまのご意見を聞いていて、この総合計画の在り方についてのご発言が結構あったかと思っておりますので、先の総合部会で私が申し上げたことを少しご紹介したいと思います。
- ・ 100 万人を超える県民がいて、どのような総合計画を考えているかということと言うと、やはり県全体の現状を県民の皆さまによくご理解いただいて、さらに「県として、このようなことを考えています」というのが総合計画であろうということから言えば、必ずしも県が全て予算化して何かをやるということだけを書く必要はないのではないかと、思っております。方向とすると、富山県としてこういうことをやっていきたい、あるいはこうなってほしいと。そういう意味で言うと、公助・自助・共助、さまざまな目標達成のやり方があるかと思いますが、明治以来の日本の伝統と申しますか、何か計画を出すと、それは官がやってくれるというイメージが非常に強いものですから、この計画を作った瞬間に「ああ、これが書いてあるということは、富山県が何か予算化して必ずやってくれるのだろうか」と期待を持って見られてしまうくらいはあるかと思っております。

従って、大変大胆な提言ですが、例えば「これは項目が書いてあるけれども、県は予算化しません」と。これは民間でやっていただきたいというような大胆な書き方が

あってもいいのではないかと思います。ケネディ大統領がアポロ計画で月へ行こうと言って、現実に月まで行ったわけですから、ある意味、目標を示すことも非常に重要であろうということです。県の皆さまは大変だと思いますが、あえて予算化しないけれども、ここに書いておくということで、これだけの網羅性を示して目標を示すということも、私自身は重要ではないかと思っております。

【岩城安心部会長】

- ・ 安心部会は4月27日に県民会館で第2回が開催されております。出席委員は審議会委員が13名、専門委員が10名の計23名で会議を行いました。全員出席です。その中でいろいろな意見が出てきましたが、その詳細については参考資料1-3に記載されているので、私からは主立ったご意見をご紹介します。
- ・ まず医療関係の方で、展開目標1「いのちを守る医療の充実と健康寿命日本一」に関しては、やはり今後は女性医師が非常に増加してくるということで、特に今年度に医学部に入った学生の4割近くが女性ということもあるので、今後は勤務医の女性医師の労働環境を改善していかなければ、医師不足が改善されないのではないかという意見がありました。
- ・ もう一つは在宅医療が非常に進んでいるわけですが、この推進においてはリハビリ、管理栄養士、薬剤師等の多職種の連携やレベルアップが必要ではないかという意見がありました。確かにこれから在宅医療はますます増えてくるかと思っておりますので、ぜひ多職種の連携が必要になってくるかと思っております。
- ・ それから、生活習慣の改善として、取組みの基本方向では休養の視点が非常に必要になってくるのではないかと、また、施策として禁煙の推進が健康寿命日本一を目指すためには必要になってくるのではないかということです。
- ・ 展開目標2「住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉の推進」では、やはり地域の個別事例を踏まえ、いろいろな問題があるかと思いますが、施策・政策の提言まで行える地域ケア会議の充実をぜひ図っていただきたいということです。また、障害者などもその対象としていただきたいという意見がありました。元気な障害者の方もいらっしゃいますので、今後は障害者もその中に加えて、活躍していただく必要があるかと思っております。
- ・ 介護・福祉人材の確保については、今後、ますます人材確保が非常に難しくなってくるかと思っておりますが、中学・高校でのキャリア教育にぜひ福祉教育を位置付け、教育の中に取り入れていただきたいという議論がありました。
- ・ それから、障害者への支援に関しては、障害者雇用の工賃アップに向けて、企業からの下請型ではなくて起業的な形への転換が必要になってくるのではないかと、どうしても下請だけでは工賃アップにはつながらないのではないかという意見が出ました。
- ・ 展開目標3「環日本海地域をリードする『環境・エネルギー先進県』づくり」では、食品ロスや食品廃棄物の取組みを、この先10年を見据えて推進してほしいという意見がありました。やはり食品の無駄についてぜひ考えていただきたいということであろうと思っております。
- ・ 展開目標4「災害に強い『日本一安心・安全な県』づくり」ですが、防災団体や住

民に対して災害時の対応方法等について情報提供を行っていただきたいということで、やはり情報不足がまだまだあるのではないかとこの観点です。

- ・ 犯罪の抑止や地域交通、環境づくり等に関しては、パトロール隊員の高齢化が非常に懸念されているという指摘があったとともに、防犯対策として防犯カメラが有効なので、早急かつ大幅に設置を増加していただきたいという要望がありました。やはりこれからは防犯カメラも非常に役立つものの一つかと思っております。また、空き家対策について、近年は空き家対策が非常に問題となっているので、この対策をぜひ考えていただきたいということです。
- ・ その他の委員の意見として、全体的に非常に大きな骨子案が出ていますが、やはり先ほどもお話があったように、行政が行動してほしいといった観念の記述が多く見られます。しかし、これはやはり一般県民を巻き込むという観念が必要になってくるのではないかとこのことで、財政負担にもつながってくるので、県と県民が一体となってこの政策を取り扱っていただければと思っております。

【永原会長】

- ・ ありがとうございます。今、3部会長からそれぞれコメントを頂戴しましたが、遠藤さん、総合部会については先ほどコメントしてもらったと思いますが、追加でお話しされることはありますか。

【遠藤総合部会長】

- ・ 総合部会の概要のコメントはさせていただきましたが、資料6で示されている重点戦略のテーマ案は、まさに「とやま未来創生戦略 2017」の地方創生や人口減少といったキーワードにどう対応するかという項目を深化させた部分と、「富山県経済・文化長期ビジョン」ということで30年後を展望して作られた幾つかの課題を併せて、この総合計画と並行してやっていくと理解しております。これらが3本柱のような形で政策が進んでいくのだろうという点では、非常によくまとめられています。

ただ、これからどう時代が変わるかは分かりませんが、やはりその時点、その時点でKPIやPDCAサイクルをどう回すかということで、客観的な評価をしつつ次に進むということが非常に問われているのだろうという意見も、部会で多く出たことを申し添えます。

【永原会長】

- ・ ありがとうございます。それでは、これから委員の皆さまよりご意見を頂戴したいと思っております。

【麦野委員】

- ・ 先ほど吉田会長もおっしゃっていましたが、いろいろな施策を打っていく場合にやはり一番大事なのは、参加するメンバーにどう納得させるかです。また、それをどう定着させて徹底して継続していくかが、本当は一番大事だろうと思っております。従って、PDCAを回すとか、いろいろなKPIを作るといったことはぜひやるべきではないかと

思います。

- よく幸福度ナンバーワン、ナンバーツーなどという話が出ますが、例えば日本総研が発表した幸福度指標ランキングでは福井県、長野県、石川県、富山県が上位に出てきます。しかし、残念ながら、それらの全ての県で人口が減少している。従って、幸福であることと人口の増減にはどのような関係があるのだろうかというのはいつも不思議に思っているわけですが、いわゆる幸福度の基盤にあるのは安全、安心、安定です。もしかしたら変わらない方が幸せなのではないかというのが、人間どこかにあるのではないかと思います。人口増加にはやはりどこかに刺激があって、うきうきして、チャレンジするチャンスがあるとか、若干異質なものが入ってくるのではないかと。

そうすると、今回の活力、未来、安心というのは大変その軸にマッチしたテーマでないかと思います。これらをミックスした形でないと意味がありません。それに参加する県民の覚悟というか、意識というか、この意識が受け身である限りは、絶対に本当の幸福は生まれません。ずっとダウントレンドになっていってしまうわけですから、やはりいかに県民が主体的に参加するように持っていかも大事ではないかと思えます。そして、そのときには官がやるべきことと、民がやるべきこと、本当に一人一人の個人がやるべきことをきちんと明確にし、あるときは協業・協力し、あるときはお互いに分かれてやらなければ、依存してしまっていてはやはり主体的にはならないと思えます。

- 例えば、富山にはたくさん祭りがありますが、富山の人で八尾のおわらを見たことがない人もたくさんいます。県外からはたくさんの方が来ますが、「あんなものに行ったら、混んでいるだけだ」という態度では、まちは盛り上がりません。ですから、やはりどうやって盛り上げていくかを考えなければいけないでしょう。また、今のように新卒の採用が採れないと民間が困っているときに、公的機関がたくさん採用すると、民間は雇えたものではありません。ですから、このようなときにはお互いに協力すべきだと思ったりもします。金融についても、民間金融と公的金融の在り方についていろいろ思っています。その辺はすみ分け、あるいは協力をきちんとやるべきではないかと思えます。

- それから、先ほどから人づくりの話が出ていましたが、実を言うと、人づくりが一番大事なことは分かっているのですけれども、人づくりとは何かという議論が少ないと思えます。どこにどのような人が必要なのかということについても、もっともっと話をしなければいけないのではないかということです。大学の数が少ない、若い人が少ないという話もありますが、富山で生まれた人が富山大学に行って、ずっと富山から出ないということが良いのかどうか。やはり県外や海外を見てくることも大変大事なことです。そして、最後は富山に帰ってくると。富山に自分たちのルーツがあるのだと思うことの方が大事です。そう思うと、もう少し小学校・中学校のときに郷土愛を育むような教育をしない限りは、みんな良い学校へ行って、良い大学に行くという価値観を持ってしまうと、決して富山県に帰ってくることはあり得ないと思うのです。

富山には自然もありますし、立山の崩れのことを見たことがない小学生も大勢います。電源開発について全然知らない子どももたくさんいます。あのようなことは小学生のときに見ておかないと、富山がどれだけ素晴らしいか、あの山の下には何がある

かということに全く気づいていないと思いますから、人づくりについてはぜひ郷土愛をテーマにさせていただきたいと思っています。ただ、そのときには働き方改革の中で学校の先生の労働環境の改善も必要で、あの労働環境は恐らく大変だろうと思っています。

【金森委員】

- ・ 私は資料2の方でお話しさせていただきたいと思っていたことがあって、各市町村には総合計画があるわけで、その計画を実施する場合には財源が必要です。それはもちろん、県の総合計画についても同じことです。そうになると当然、予算の規模なり、あるいはその財源の確保は非常に難しいといえますか、苦勞しなくてはなりません。

従って、計画に盛り込んだ事業を実施する過程においては市町村と連携を取って、富山県の総合計画と各市町村が持っている計画の整合性も見ながら、各年度でそれが実施できるものかどうかを検討することも大変重要でなかろうかと思っているわけです。市町村との連携を十分密にさせていただきたいということが1点目です。

- ・ それから、私は未来部会の所属で、実を言うと舟橋村では2年前に、子育て共助ということで役場の庁舎の2階に子育て支援センターを設置しました。それは村民よりも村外の方が参加して、非常に盛り上がっていると。それはなぜかを担当者に聞いて、私なりの意見としてレポートを書かせていただいたわけですが、結論を言うと、実際に子育てをしている方々の声を十分反映させる施策が必要であると。特に私のところが成功しているのは利用者参画型といえますか、利用される方々がどうしたら子育て支援センターを活用できるのか、どうしたらいいのかということなのです。

やはりそういった施策を推進するためには、ニーズを把握するといえますか、そういったものをきちんと整理整頓してやるべきでなかろうかと思っており、それも私が今言いましたように垣根を取り払って、村民だけでないのだということが皆さんの共鳴を得て、子育て支援センターが活性化しているのではないかと、利用されているのではないかと考えています。そういう意味で、広い視野に立って、施策に対するパブリックコメントなどを重視していただきたいということです。

【尾谷委員】

- ・ 総合部会でも話が出ていたのですが、長期構想の話で、今は10年先のことをやっていますが、20年先、30年先のことをフレームとして書いた方がいいのではないかと思います。思いから、お話しさせていただきたいと思います。

例えば、地球温暖化によって北極の船の航路（北極ルート）が出てくるのではないかといわれています。夏場の5月から11月までの8カ月間動くことになるのですが、スエズ運河を渡らなくて早く安く来られるとなると、外交問題にも関係しますが、拠点となるのは関東や東海、近畿で、やはり大回廊の話で言うと、富山に一番メリットがあるのではないかと思います。

大きな船が来ても、新湊の橋があつてどうなのかなということもありますが、ただ、日本としてハブの港になるとしたら、韓国や中国にも負けないようなものとして動いていったならば、新潟や富山、金沢といった中心の港のことを考えると、富山で頑張

っていく仕組みを大回廊の中で、いろいろルートがありますが、港湾からも来るようなルートのつなぎ方を今のうちに準備しておいた方がいいのではないかと。フレームの中に箇条書きでいいですから、アンテナを立てて準備しておくという方向が一つあってもいいのではないかと思いますので、よろしくをお願いします。

【尾山委員】

- ・ 富山県を他の県から見ると、立山があつたり、素晴らしい魚があつたりということで、いろいろな県の方たちは富山県のことをよく知ってくれていると思います。おかげさまで、知事を筆頭にいろいろな方たちに素晴らしく PR していただいておりますので、富山県はやはり魚のまちで、素晴らしい立山があつて魚もおいしいということで、私たち漁業者はとてもありがたく思っております。
- ・ これからそれ以上に富山県を知っていただくためにどのようにしていかなければならないかと思ったときに、やはり漁業は今、とても衰退している状況にありますから、これをどのようにしていけばいいかと。やはり後継者がいません。安心して生活できるような状況であればいいのですが、やはり自然相手なので、いろいろなことで安心して生活ができないために、若い人たちの就業者が少ないです。ですから、これからどのようにして若い人たちに漁業をもっと知っていただくかという課題があります。私は素晴らしい職業だと思います。同じことを毎日こつこつやっているのではなくて、今日はどうだろうか、今日は魚がいるのかどうかと、やはりそのようなことを楽しみながら働ける職業だと思います。
- ・ 富山県は漁業のまちということで、もっと若い人たちに頑張ってもらいたいと思っておりますので、どのようにして若い人たちにこの職業に就いて頑張ってもらえるか、私は自分で考えてもよく分かりませんので、また皆さんで考えて、いろいろなご指導を頂ければ、それに向かって私も頑張っていきたいと思っております。

【桃野委員】

- ・ 人口がこれから減っていくのは確実です。そうした中で、今、尾山さんの発言にもありましたが、第1次産業がどのように受け継がれ、発展していくかという観点にもっと立って考えていかなければならない時期に来ているのではないかと思います。
- ・ 例えば農業が集落営農から始まり、生産法人になり、あるいは会社組織でやっているところもありますが、いかんせん林業・水産についてはそのような組織がなく、森林組合がやれないこともないわけですが、人口が減っていく中できちんとした、後継者といっても若い人はなかなかいないわけですから、組織をどのように育ていくかということも大事になってくるのではないかと。林業の場合は施業の集約化と言っておりますが、何軒かの持ち主が共同で施業をするだけではなく、もっと本格的に人口減における経営というものを考えていく必要があるのではないかと思います。

【中井委員】

- ・ 先ほどお話があつたとおり、医薬品生産額が全国 1 位になりました。現在は 7,300

億円ですが、私どもの業界では、これをやはり1兆円産業にしなければいけないと思っております。

- ・ これからいろいろグローバル化しますが、グローバル化というのはこちらから行くのではなく、情報を発信していると、世界各地から来る時代なのです。これから新薬はなかなか難しいと思いますが、投与経路の変更といいますか、患者さんにやさしい新しい飲み方、注射に代わるもの、それから最近、うちの会社で力を入れているのはミスティにする、薬を霧にして吸い込むような製品の開発です。
- ・ そのときにはやはり容器屋さんなど、そういったクラスターと協力しないとできません。クラスターの方にはそれが数百億になるということにもう少し関心を持って、小さくまとまるのではなく、グローバルにやっていくようなものの考え方をしていたら、医薬品が1兆円産業になるとともに、周辺産業が発展するのではないかと期待しております。

【永原会長】

- ・ ありがとうございます。この辺で、知事からコメントをお願いします。

【石井知事】

- ・ 大変貴重なご意見をたくさん頂いて、ありがとうございます。
- ・ 高木委員から秋田県のお話がありましたが、本当に東北、また、全国を見渡しても、人口が富山県とあまり変わらない、あるいは少し大きいぐらいの県で、毎年、人口が社会増減で見て3,000人、4,000人、5,000人減っているところがたくさんあります。そのような中、富山県はここ5年、10年頑張ってきて、わずか226人とはいえ、ようやくプラスになったのはやはりすごくうれしいことで、これからも頑張っていかなければいけないと思います。
- ・ また、この計画で目標や方向性を示しても、その全てを行政なり県なりが予算措置してやるということではなくて、自助・互助・公助ということで、これはもう民間にやってもらうとか、そのようにしっかり割り切ってやってもいいのではないかと、ある意味では大変温かい言葉を頂きました。その点については、もちろん純粋に民間にお任せすること、あるいはこの計画に入れる必要があるのかどうかということもありますが、民間の方に大いに力を発揮していただきたいと思います。ただ、本当のコアのところは民間にやっていただくのですが、そのための環境整備を県がやるとか、そのリスクを少しでも減らすための取組みをすとか、あるいは呼び水としてこういうところをやるといったこともあると思います。今のような時代ですから、また、ようやく財政再建・行政改革を達成した富山県ですから、元のもくあみにならないように、ちゃんと節度のある計画にしていきたいと思います。
- ・ それから、先ほど岩城委員からも女性医師のお話が出ましたが、これから社会全体が人口減少ということで、女性の皆さんには、もちろん今までも大いに活躍されている方が多いのですが、持てるお力を大いに発揮していただくことが大切な時代になってきています。そのための施策として、例えば女性医師の勤務環境を良くするということで、これはもう6~7年前からかなり取り組んできているつもりですが、まだまだ

課題があると思います。しっかり取り組んで、これこそ民間の皆さんや市町村など、いろいろな皆さんと連携しながら進めていきたいと思っています。

- ・ ふるさと教育が大事である、郷土愛を育む教育が大事だというお話が麦野委員からありましたが、この点もまたそのとおりです。富山県でも経済同友会などを中心に、経済界でもふるさと教育が大切だとおっしゃる方が以前から結構いらっしゃいます。ご存じだと思いますが、富山県では小学校5～6年生を対象に『ふるさととやまの人物ものがたり』という副読本を作りました。ふるさとのある意味では偉人というか、今日の富山県をつくり上げるのに苦心されて大変な功績を挙げた方々を顕彰し、子どもたちに分かるようにしているのですが、確か54人ほど取り上げていたかと思います。
- ・ また、中学2年生には富山で働いて子育てをする良さ・楽しさ・魅力をライフプラン教育という形で伝えていきますし、そもそも日本では高校で日本史が必修ではなかったのですが、歴代の文部科学大臣にお願いして、日本史と世界史が分かれていたのを歴史というくくりにして、日本史と世界史を一緒に教えるという形に国の学習指導要領を変えていただくことができました。併せて、富山県の郷土史を副読本として高校生の皆さんに提供し、学んでいただいております。これは正直、私自身が読んでも勉強になる中身になっているので、またご覧いただければと思います。おっしゃるとおり、郷土の良さというのは大事ですから、今後もさらに努力していかなければいけないと思います。
- ・ 金森委員には村のことだけでなく、幅広くいろいろ取り組んでいただいております、感謝申し上げます。
- ・ 北極航路の話も出ましたが、まさにそういう視点も大切です。そのようなこともあって「富山県経済・文化長期ビジョン」を作ったわけですが、20年後、30年後の姿を想定して、従って10年後までにはこのようなことに手を打っておくべきではないかという計画を、分野によっては作ることになるのではないかと思います。
- ・ それから、人口減少時代の農業や林業の話もいろいろあって、伊藤委員や桃野委員も腐心されていますが、非常に希望が持てるのは、「富富富」もありますけれども、1億円産地づくりでとなみ野のタマネギがあります。7～8年前は、JAとなみ野のレベルで売上が950万円しかありませんでした。それをこの7～8年、一生懸命取り組まれて、最初の2～3年は赤字続きだったのですが、試行錯誤されて、去年はついに約5億円になりました。となみ野全体で昔は確か8haぐらいしか作っていなかったのに、今は100haぐらいになったと思います。
- ・ それにしても、他の産業と比べて売上が約5億円というのは小さいのですが、10a当たりで言うと、となみ野のタマネギ農家は所得が手取りで約21万～約22万円になるのです。ということは、もし2haやっていたら、タマネギだけで400万円の所得になります。3haやっていたら、600万円の所得になります。そうすると、他のことはさほどやらなくても食べていける、それなりの生活ができるわけです。一方、例えばコシヒカリは今、10a当たり2万円ぐらいの所得にしかありませんから、2haやっけても、年間約40万円の所得にしかありません。ですから、これからの農業というのはいかに収益性の高い農業、付加価値の高い農業をやっていくかということで、そういう視点からも、富山県の農業政策をしっかり推進していきたいと思っています。

- ・ 最後に、中井委員のおっしゃった1兆円産業はぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。苦くなくて飲みやすいつか、霧状にして飲めるとか、いろいろな新しいチャレンジをしていただひていることに感謝を申し上げるともに、今、薬事研究所も未来創薬開発支援分析センターを造り、国からの地方創生交付金の対象にしてもらって、医薬・バイオでいろいろなことにチャレンジできる環境整備に県としても精いつぱい取り組みますから、ぜひ医薬品業界の皆さまには1兆円産業を目指して頑張つていただければと思ひます。

【永原会長】

- ・ ありがとうございます。そろそろ予定の時間となりました。委員の皆さま、貴重なご意見をどうもありがとうございました。
- ・ 骨子案については、本日の意見を踏まえて現段階で修正すべきところは修正し、一応の取りまとめをしたいと存じます。骨子案の修正については、私と遠藤会長職務代理者、そして高木部会長、金岡部会長、岩城部会長とご相談し、また、事務局とも協議の上、まとめさせていただくということでご一任を頂戴したいと思っておりますが、ご了解いただけますでしょうか。

—異議なしの声—

【永原会長】

- ・ ありがとうございます。ご一任を賜つたということで、よろしくお願ひします。それでは今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願ひします。

(4) 資料説明

<事務局より参考資料2> 省略

【永原会長】

- ・ 最後になりますが、知事から閉会のご挨拶を頂戴したいと思ひます。

(5) 閉会

【石井知事】

- ・ 今日はどうもありがとうございました。今、永原会長からお話を頂いたとおりですが、この後、今日出していただひたご意見も活かした形で、修正すべき点は修正し、会長に取りまとめの労を執つていただきまして、その上でこの骨子案をパブリックコメントにも出し、また、県内を三つに分けた地域委員会をつくることとしておりますので、そこでもご審議いただきます。この地域委員会でのご審議を経て、県内3地域でタウンミーティングを開きまして、県民の皆さんのご意見を幅広く伺ひ、さらに県議会との意見交換も行うといったプロセスを経て、青年委員会や活力、未来、安心の三つの部会と地域委員会等をこの秋に開催して、最終的には年末あるいは1月末ぐらひにご答申を頂ければありがたいと思っております。

- 皆さま、本当にお忙しい方々ばかりですが、今日は本当にありがとうございました。
これからもよろしく願いいたします。